

03

つばめの農業のこれから

農業を取り巻く環境は刻々と変化しています。今後、燕の農業はどうなっていくのでしょうか。

合計1,100名様に抽選で当たる!

つばめ 食べて! 応援キャンペーン

つばめの味覚をどーか!と山分け

燕市が打ち出す新型コロナウイルス感染症対策の一つ、「つばめ"食べて"応援キャンペーン」を開催中。

対象となる燕市産農産物を購入してシールを集めて応募すると、抽選で市内の農産物などの賞品が当たります。

この機会に、ぜひ燕市産の新鮮でおいしい野菜を食べてみませんか?

【キャンペーン期間】

令和3年10月31日(日)まで



▲シール見本

※賞品やキャンペーンの詳細については、市ホームページまたは「広報つばめ8月号」をご覧ください。

圏燕市農業まつり推進協議会事務局

(農政課 農政企画係)

☎ 0256-77-8242



踏み出せ! 農業! スタートアップ事業

若い農業者を育成するため、農業を始めるために必要な研修の受講や農地の取得にかかる経費の一部を支援します。

申請の際は、事業の計画段階で農政課までご相談ください。

圏農政課 生産振興係

☎ 0256-77-8245



Interview

これからは楽しみで仕方ない

「コロナ禍では、特に米への影響が大きかったですね。それでも、新潟県は今後も米が主流であり続けると思います。その中で、玉ねぎなど米に替わる別の一手を打てる準備をしておくことがとても大切だと感じています。

正直、10年後どうなっているかは私も読めません。他の産地の状況、進む農業の機械化、買い手のライフスタイルの変化。要因はたくさんあります。

だからこそ、燕市の農業がどう変化していくのか、楽しみで仕方ないですね」



JA 越後中央 営農部 営農企画課 係長 遠山 哲志さん

Interview

燕市はチャレンジする人を応援します

「市では、米だけではなく収益性の高い園芸作物を推進していくことで、『儲かる農業』を目指しています。

また、個々の農家の皆さんだけでなく、さまざまな異業種団体や企業などでも、新たな取り組みが進んでいるのです。

一方で担い手不足も課題になっており、市では今年度、若手の新規就農者などへの支援として『踏み出せ! 農業! スタートアップ事業』を始めています。

皆さん、ぜひ燕市で農業にチャレンジしてみませんか」



燕市 産業振興部 部長 遠藤 一真

過去、燕市で大型ロケを敢行した日曜劇場「下町ロケ」のよつに、無人トラクターやコンバインが現実に見え、走る日は、すぐそこまで来ている。

●おいしい農産物に感謝するSDGsやコロナ禍による生活様式の多様化などもあり、農業を取り巻く環境は更に大きく変化していきます。異業種からのアプローチもどんどん進むでしょう。

農業は農業者だけのものではありません。私たちの食を支えてくれている農業は私たち全員のもので、安全・安心でおいしい農産物を当たり前のように食べられる毎日に感謝したいと思います。

check

学生×農家で新しいアイデアを

農家と企業を繋いだのは、農学部の大学生たち。

燕は農業も盛んで栽培品目も多い一方、収穫が間に合わず規格外になってしまい、そのまま廃棄されてしまう野菜もあると知り、農家さんの意見を取り入れながら、社内で規格外野菜を販売するイベントを企画。社員にも好評で、その意思を受け継ぐ形で委員会がスタートしました。

そして、今年のインターン生たちは経済学部。新たな視点での提案が期待されます。



農家さんから連絡が来ると、メンバーが野菜を引き取りに行きます。今日は夏の味覚、枝豆です。



会社で袋詰め。



就業後、社員の皆さんが買いに来ます。人気の枝豆はあっという間に完売です!



(株)新越ワークス フードロス委員会

エスディージーズ

◎SDGs (持続可能な開発目標)

2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標。17のゴール・169のターゲットから構成されています。「食」の分野もそのひとつ。



エーション豊かな燕の食材の可能性をこれからも探り続けます。

企業で取り組み サステナブル フードロス委員会

●金属加工会社のフードロス 金属加工メーカー「(株)新越ワークス」では、今年5月、「フードロス委員会」を立ち上げました。サークル活動のような形式で運営され、実り過ぎて農家が対応できなくなった野菜を引き取り、格安で社内販売しています。

「忙しくて収穫できなかった野菜はそのまま廃棄されてしまいます。そういったことを少しでも減らそうという取り組みです」

売り上げは全額農家に。農家は商品を廃棄せずに済み、社員も格安で新鮮な野菜を手に入れます。

「まだ走り出したばかりのこの活動。やりとりする農家さんを増やしたり、近くの会社の人も買えるシステムを作るなど、展望は広がります。

「続けることが大切なので、まずは軌道にのせられるよう頑張ります。調理器具も作っている中で、いつの日か業務に繋がることもあるかもしれません。今はそこまで考えていません。サークル活動なので、とにかく楽しくやっていく。これが一番ですね」

これからの農業

●無人トラクターも

今回の取材を通し、予想をはるかに超えてIT化が進んでいることが分かりました。農家の努力を後押ししてくれる機械や技術たちは、今後さらに重要になっていくはず。